

西坂・諏訪の森エリア

■地区の概要

J R長崎駅近くに位置するこのエリアは、日本二十六聖人殉教地や寺院群、中町教会、諏訪神社、長崎歴史文化博物館など市外からの来訪者や市民が訪れる観光施設も多く存在します。しかし、観光資源に隣接した商業地や住宅地等は、高密な土地利用がなされており、雑然とした印象を与えている面もあります。

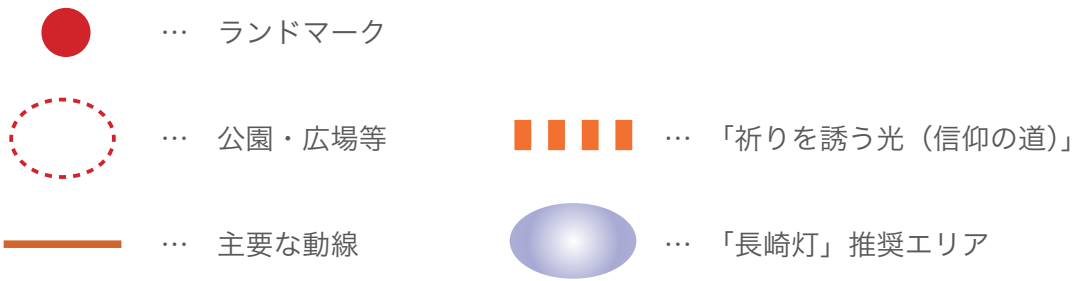
多くの来訪者に長崎の印象を与える地区でもあり、地域住民にとっても長崎を代表する場所として自信と誇りをもって自慢できる、長崎の玄関口としてふさわしい景観の形成が必要なエリアです。



コンセプト：愛と祈りと安らぎの光

人々の暮らしが根付いている場所で、ふと顔を出す祈りと信仰の歴史資産にさり気なく光をあて、落ち着いた心地よい夜間景観の形成を目指します。

- ・西坂教会や諏訪神社等のランドマークは、適切なライトアップを行います。
- ・諏訪神社や松森神社の参道、西坂の丘から長崎港への軸線を光によって顕在化する。
- ・長崎歴史探訪路を主要な動線として公共照明を見直し、夜の回遊性を高めます。
- ・駅前商店街は、長崎駅周辺地区との連続性を大切にします。



4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

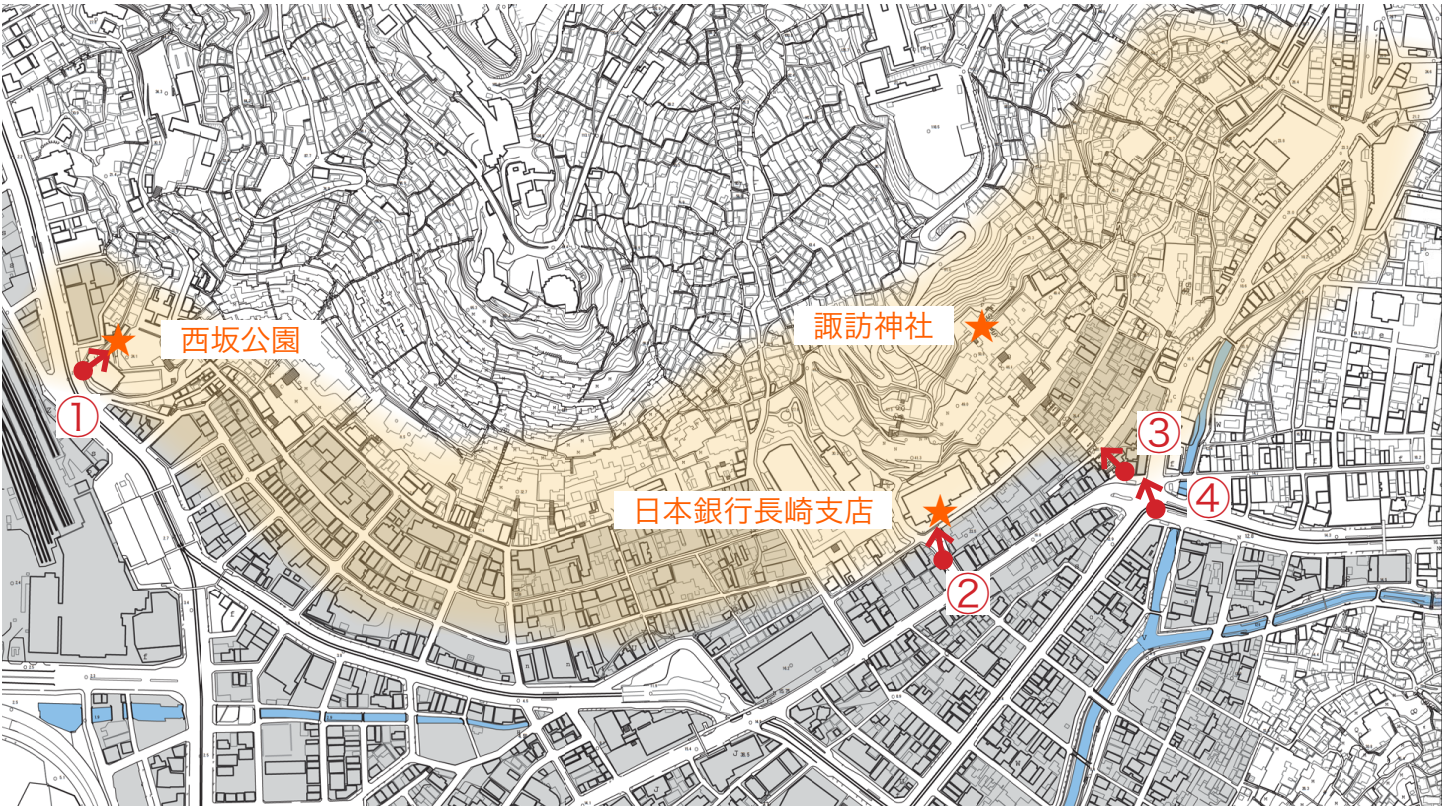
4-3-3. 西坂・諏訪の森エリア

現状調査

■現状分析と課題

観光客が訪れるポイントとなるの長崎歴史文化博物館や西坂公園、諏訪神社ですが、夜に訪れる観光客は少ないのが現状です。また、地元の人々にとっては生活の道でもあります。道路の照明はナトリウム灯が多く、演色性が悪い光源により景色が色あせています。長崎駅周辺エリアや市役所通りエリアから近いエリアでもあるため、心地よい夜間景観を演出することにより、これまでになかった夜の表情を創り出すとともに、暮らす人々にとっての快適さも両立させることができます。

★ … ランドマーク
📍 … 調査写真撮影箇所



①西坂公園



ポール灯のグレアがとにかく目立つ。日本二十六聖人像や教会尖塔のライトアップは、素材に合った色味で悪くないが、もう少し繊細さを演出したいところ。



②日本銀行長崎支店前



暖かな雰囲気演出できるナトリウム灯だが、この周辺では演色性の悪さが目立つ。



③諏訪神社入口



参道の鳥居は暗く目立たない。両脇の灯籠の光源は白く、やや冷たい印象を受ける。



④馬町交差点



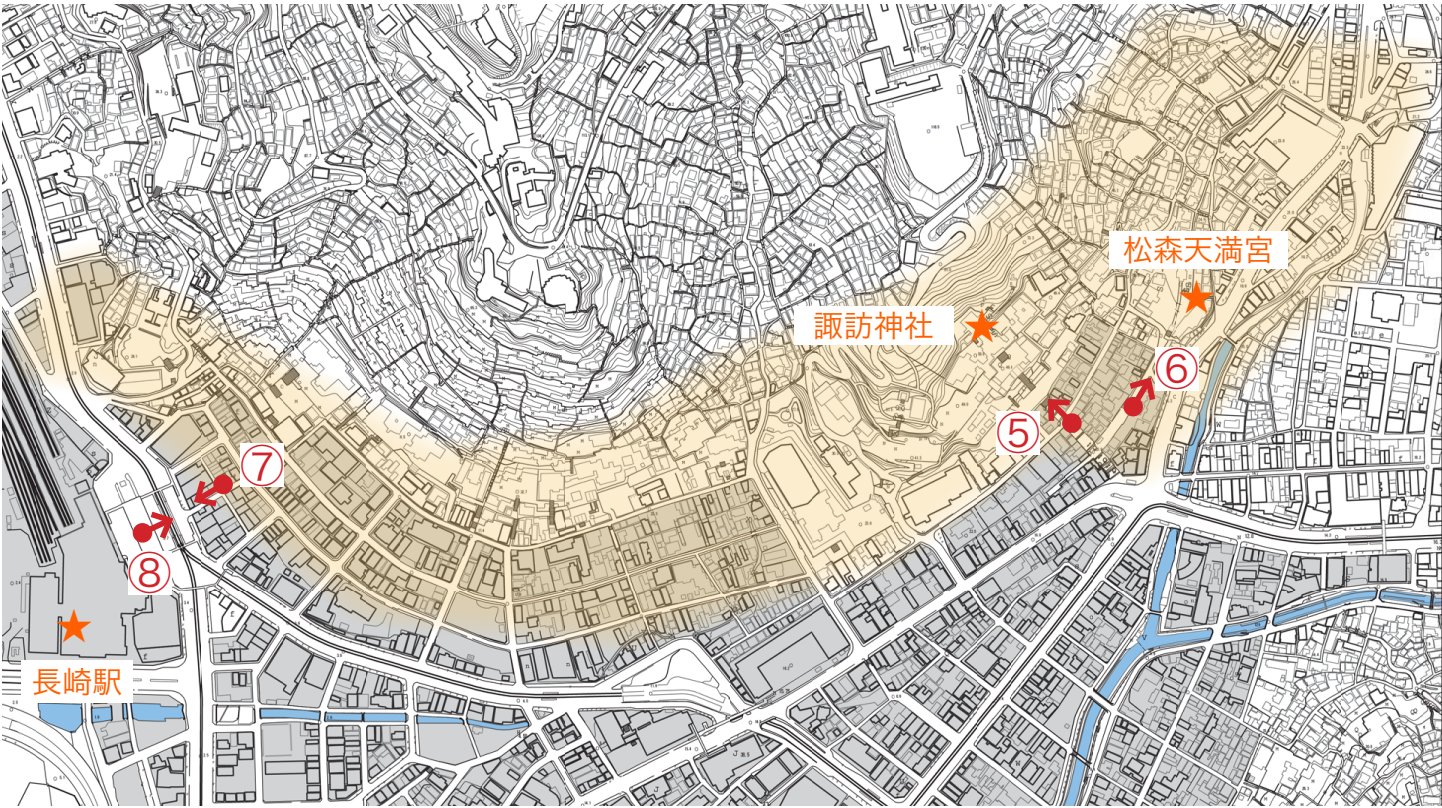
交通量の多い交差点。街路灯は光源が混じっている。諏訪神社の鳥居が目立つと良いランドマークになる。

■現状分析と課題

和風意匠のナトリウム灯が数多く設置されていますが、全体的にグレアに課題があります。また、機能的に照度が不足している場所もあります。大部分が住宅地であることから、安心・安全を優先的に考慮しながら、エリア内に点在する資源に光をあてる必要があります。

駅前の商店街は夜にも賑わいを見せており、レトロな心地よさや情緒が感じられます。

★ … ランドマーク
📍 … 調査写真撮影箇所



⑤諏訪神社参道



高齢者の通行もあったが、機能的に照度不足のようである。自動販売機によって照度が確保されており、ナトリウム灯の明かりは階段の段差部まで届いていない。



⑥松森神社前の通り



一般的な住宅地ではあるが、石積みや街路樹など周囲の鉛直面が暗く沈んでしまっている。街路灯は眩しい。



⑦長崎駅前商店街



多少明るすぎる場所もあったが、色温度も温かみを感じさせ、活気もあり、良い意味での雑然さを感じる。



⑧長崎駅前商店街



商店が途切れると路面が少し暗くなっている。

	現状調査から見た問題点	
陰影の考え方		・ポール灯の根元は明るい 全体としては暗い
色温度		・2000-4000K
鉛直面輝度		・特徴的な建築が夜は暗く沈んでいる
グレア対策		・各所でナトリウム灯がまぶしい
演色性の優先度		・一部照明の演色性が悪い
器具		・ナトリウム灯が多用されている
オペレーション		・大きな問題なし



夜間景観向上のための基本原則
・広場は 1 Lx 程度、 通りや導線は 1-20 Lx 程度に設定する
・2700-3000K 程度に整える
・視線を受けるランドマークを意識的に照らす ・視線の先をライトアップし奥行きのある光を作る
・ポール灯などはグレアに配慮された器具を使用する
・Ra80 以上で適切な演色性を確保する
・LED を基本とする
・時間によるライトダウンを検討

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

	現状調査から見た問題点	
陰影の考え方		・ 25-30Lx
色温度		・ 2500 - 5000K
鉛直面輝度		・ 行灯風の器具や看板照明により確保されている
グレア対策		・ 大きな問題なし
演色性の優先度		・ 大きな問題なし
器具		・ 大きな問題なし
オペレーション		・ 大きな問題なし



夜間景観向上のための基本原則
・ 5-30Lx 程度とする
・ 3000K 程度とする
・ 現状を維持する
・ グレアに配慮された器具を使用する
・ 人が多いエリアのため、Ra90 以上を基本とする
・ ポール灯は配光が制御された器具とする
・ 時間によるライトダウンを検討する

※ Lx（ルクス）とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）
※ K（ケルビン）とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）
※ Ra（アールエー）とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

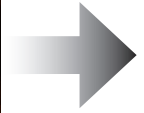
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-3. 西坂・諏訪の森エリア

西坂公園 整備イメージ



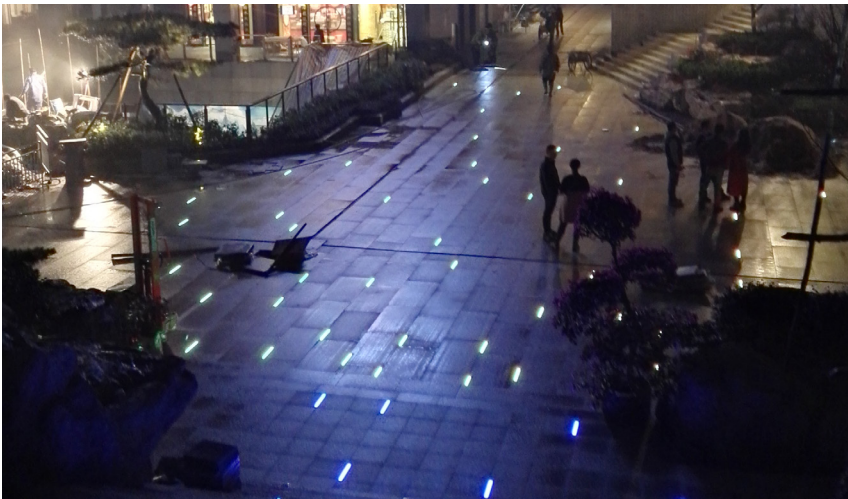
現状



整備イメージ

■整備イメージについて

日本二十六聖人像から長崎港への軸線を示す舗装のデザインに導くような光を与え、殉教の歴史を想起させる光にします。ポール灯のグレアを軽減し、埋め込んだ光の道と、広場周囲のライトアップによって、印象的な明るさを確保します。広場の静謐な雰囲気にならわせ、奥に見える教会は外からの投光器の光を抑え、教会内部からステンドグラスを照らすライトアップを推奨します。教会の背後にある斜面市街地は、グレアのない快適さと遠方への演出照明を両立させた長崎独自の防犯灯の整備を検討します。



埋め込み照明による光の道の事例（中国）



内部からのライトアップによるステンドグラス演出の事例（シャルトル）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-3. 西坂・諏訪の森エリア

諏訪神社 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

馬町の交差点からも諏訪神社の存在が感じられるように、参道のライトアップを行います。また、一の鳥居の前にある広い空間は、参拝者を迎え入れるような光を演出するため、高い位置から柔らかい光を落とすハイライト（ムーンライト照明）を検討します。石灯籠の光源は、神社の雰囲気に合わせて自然なあたたかみを感じられるような色温度の低いものに変更します。参道の階段は暗くて危険が感じられるために、両脇から段を舐めるようなフットライトで照らします。低い位置から路面を効率よく照射する照明は機能的にも必要です。



鳥居のライトアップの事例（東京）



路面を舐めるようなフットライトによる光の道の事例（同）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-3. 西坂・諏訪の森エリア

松森神社の通り 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

通りの鉛直面となる石垣や案内板に適切な光を与えます。また、街路樹についても、適宜ライトアップを行います。
通りのポール灯はグレアが眩しいため、光源を変えて頭部の輝度を落とし、代わりに、ポール灯の下側にフットライトを仕込むことで、神社への参道となる路面にリズムカルな光だまりを作って安全な照度を確保します。
道の突き当たりとなる神社の門も、アイストップとなるようなライトアップを行います。



石垣ライトアップの事例（北海道）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

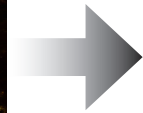
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-3. 西坂・諏訪の森エリア

日本銀行長崎支店前 整備イメージ



現状

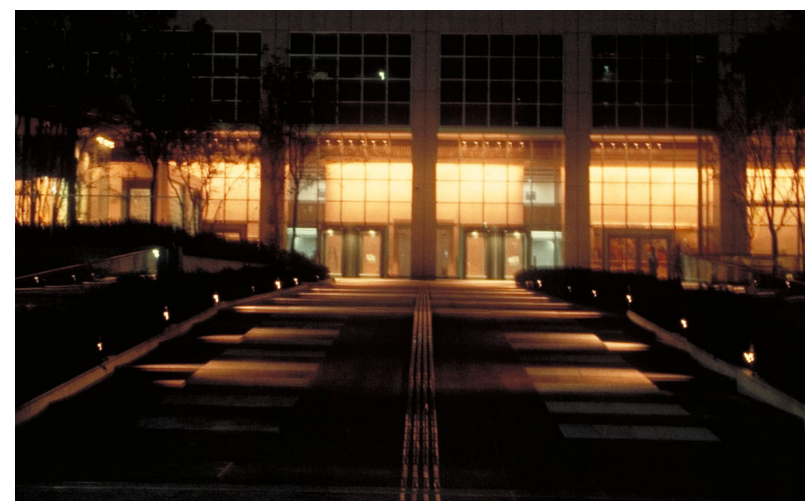


整備イメージ

■整備イメージについて

周囲の街路灯はグレアがひどく、ナトリウム灯の演色性も悪いため、適切な光源に変更します。

特徴的な建築ファサード（正面）を活かすため、内部からの漏れ光や建築スリット部のライトアップのような、繊細な光を主体とした演出とします。



低い位置の街路照明の事例（東京）